



大規模太陽光発電所の竣工を祝い、テープカットする伊予鉄道の関係者ら—17日、東温市樋口

## 伊予鉄がメガソーラー

出力1000誌東温で稼働

路線維持へ経営基盤確立

伊予鉄道(松山市、佐伯要社長)は17日、東温市樋口の社有地で出力約千誌の大規模太陽光発電所(メガソーラー)「いよてつ東温ソーラー発電所」を稼働させた。年間発電量は約300世帯分の約120万誌時。四国電力に売電し、年間約4千万円の収入を見込む。敷地約2万1300

平方以上に太陽光パネル約5千枚を設置した。鉄道やバスの運輸収入が伸び悩む中、路線維持に向けて経営基盤を確立する狙いがある。年間発電量は路面電車に使う年間電力の約4割に相当する。投資額は3億9千万円。

17日に現地で竣工(しゅんこう)式があった。佐伯社長は前身の伊予鉄道電気が県内などで電気を供給していた経緯に触れ「71年ぶりに電力事業を復活できて感慨深い。数十年にわたって電気を供給し、地域に役立つことを願う」とあいさつした。(丸岡裕美)